



3



2



4

1 / 広間からダイニングを眺める。L型形状の中心部にダイニングキッチンを設置し、季節に合わせて、心地よい朝を楽しむ場所とした。

2 / 東側道路より建物を眺める。建物東面の窓は、通風程度の最小限の大きさとした。建物の東側には遮る物が無く、夏場の朝の日差しはとてま厳しい！

3 / 家の中心部分にダイニングキッチンを設置した。冬は暖かな朝日が差し込み、夏は直接日差しが入り込まないので涼しい朝を迎えられる。

4 / 一日のはじまりはダイニングから。忙しい朝でも家族が向き合う朝食の時間を大切にしたい。

『朝日の家』と題した今回のお宅は、朝日の昇る東南方向を囲い込むように建てています。  
この建物形状は、東南の角地という恵まれた敷地条件を活かし、一日の活力となる朝日を上手に各部屋に取り込みたいと考え計画しました。今回の敷地条件のように東南の角地では、朝から昼まで自分の無い採光が期待出来ませんが、逆にプライバシーの確保の面から考えると、部屋の配置や外構計画等を検討していかないと、折角の採光を十分生かす事が出来ません。東面に朝日が当たるからという事で、キッチンやダイニング等を配置し開口部を設けると、道路を行き来する人の視線や車の音などが気になったり、生活の様子がそのままに漏れやすくなってしまう。また、冬場の朝日は温か

### 心地よさを計画する

くで歓迎出来ませんが、夏場の朝は日差しが暑くとても厳しいので、そのまま取り入れる事は避けたいところです。  
以上の事から今回の計画では、東面にはリビングと玄関を配置し、開口部は通風程度の最小限の大きさに留めています。そして、ダイニングキッチンはL型形状の中心部に配置しています。一見日の入りにくい場所に思われがちですが、冬場は東南の位置から朝日が昇るため、朝食の時間には十分な採光を得ることが出来ます。逆に、夏場はやや北東から朝日が昇るので、ダイニングキッチンの場所は日陰になり、涼しく心地よい場所になります。  
東南の角地だからといって無闇に採光を取り入れようとすると、かえって暮らしにくい家になってしまう事もあります。部屋の配置は、敷地や隣地条件に合わせて、また、暮らしのリズムを考えた上で多方面から検討していくことが重要です。

## 建築例 掛川市『朝日の家』

文・写真 / コロラボ 山崎健治

# 暮らしのリズムに 合わせたカ・タ・チ

明るく開放的な住まいに暮らしたい…。そんな憧れを抱く方も多いと思いますが、採光や通風、プライバシーの確保等、様々な角度から住まいを検討していかなくては心地よい暮らしを得ることは出来ません。

今回ご紹介する『朝日の家』では、敷地条件に合せ、建物形状や部屋の配置を工夫する事で、プライバシーを守りながらも明るく開放的に暮らす住まいをつくりました。



1 / 建物形状に合せ、バルコニーもL型に配置した。風雨の影響を最小限とする為、袖壁や深い軒を設けている。

2 / ダイニングは和室と繋がっている。和室はかきこまった場所というよりも、日常生活の中で便利に使える空間として考えた。

3 / 広間の大きなガラス窓には木製のブラインドがカーテンボックスの中に仕込んである。ブラインドは採光を調整したり視線を遮ったりと多機能で、とても優れている。

4 / 大きなガラス窓を開放し、ウッドデッキと室内を一体化させる。室内とウッドデッキには段座が少ないので、まるで広間が広がった雰囲気。

5 / 黄土を練り込んだ漆喰はとてもやわらかな表情をしている。丸みのある家具と相性も良く、優しい雰囲気の一部屋になった。



『朝日の家』の特徴は、建物形状と合せて、室内の仕上げや細部の作りからも現れていると思います。大工の手刻みで造る木組みの家では有りますが、梁材や柱材をそのまま現した木の家では無く、良質な松材の床板と、黄土を練りこんだ淡いくりム色の漆喰壁を主体とした、とても爽やかな木の家になりました。

コロコロ通信でも何度かご紹介している板倉の家では、構造壁である落し込み板壁をはじめ、梁材や柱材を大胆に現す事で、木の家の力強さや、木そのものの優しさを表現しているのに対し、朝日の家では、木材の美しさや、漆喰壁の清々しさが表現されたお宅になったと思います。中でも、壁面に塗られた漆喰は、柱間で途切れる事無く大きな面を構成し、美しさと共に、職人技術の素晴らしさも

感じさせてくれます。

この漆喰ですが、コテの押え方や材料または顔料となる色土などで様々な表情を作ってくれます。外部の壁などに使用するときは、漆喰に油を混ぜ水弾きを良くしたり、コテで数回押える事で漆喰の光沢も増し、より丈夫な壁に仕上がります。また、内部では、黄土などを練り込みコテで軽く押える事で、優しい表情の壁を作る事も出来ます。その他、大きめのスサを入れてダイナミックな壁を作ったり、土を多めに混ぜて、落ち着いた雰囲気の一部屋を作る事も出来ます。

木の家造りには欠かすことの出来ない漆喰ですが、どんな材料で出来ているのか？また、左官材料となるまでにはどんな工程で作られるのか？など、意外と知らない事も多いのでは無いでしょうか。次ページでは、左官材料となる漆喰について詳しくご紹介したいと思います。

## 清々しい漆喰の壁面



## プライバシーを守る L 形状

今回採用したL型形状の建物は、上記の理由の他、この地域特有の西からの風避けの役割も果たしています。静岡県の西部地域では、一年を通じて西からの風が多く、特に冬の西風は強くて寒いので、建物形状で攻略したいと思いました。

この西風を防ぐ為にもL型形状は大いに役立ち、西からの強くて寒い風を遮り、建物の中心に陽だまりのような場所を創り出してくれています。

その他、このL型形状は、プライバシーの確保にも役立つ形だと考えています。住宅の計画の際、通風や採光などをたくさん取り入れる為に大きな開口部を設けたい所ですが、よほど敷地や隣地の条件に恵まれていない限り隣地や道路からの視線が気になります。折角大きな開口部を作ったのならそのままオープンに暮らしたいと思いますが、現実的には、レースのカーテンやブラインド無しではプライバシーが保てません。

敷地形状や隣地の状況によりますが、建物形状が四角形の場合、南側などの開口部に対し3方向（180度の範囲）からの視線が気になりますが、建物形状をL型にする事で1方向の視線は自らの建物で遮り、視線は2方向（90度の範囲）からとなります。1方向の視線を完全に遮る事で安心感も増し、残りの2方向に板塀

や植栽などで視線を遮れば、プライバシーの確保された心地よい中庭空間を造ることが出来ます。

中庭空間には大きめのウッドデッキを設け、和室と広間、ダイニングからも気軽に庭に出て行けるような配置にし、室内と室外との関係をより身近に感じられる生活空間を造りました。







コロボ定番の木のお風呂。コーナーに突き出し窓を設け、プライバシーを保ちつつ、明るい浴室になった。



奥さんのお部屋に造り付けの鏡台スペースを造った。化粧品を入れる細かな収納や本棚も設けられている。



椅子に合せ、ナラ材の天板で建具屋さんにテーブルを製作してもらった。建具の仕組みや技術に応用して作り、主要な接合部は木組みで出来ている。



2



1

### 漆喰の主原料と背景

漆喰は「石灰」を主原料としていて、防火性・調湿性・抗菌性などに優れた、白い美しい自然素材です。

歴史的にとても古く、エジプトのピラミットの壁に使われたのが起源と言われ、古代ギリシアやローマ時代の建築物にも使われてきたことが遺跡からもわかっています。日本では、その防火性・耐久性から、戦国時代に城の建築に使われたり、貯蔵庫でもある土蔵の外壁などに使われてきました。

石灰の元は石灰岩で、その昔、サンゴや貝、有孔虫などの原生生物が堆積してできた岩石の層が、長い年月の中の地殻変動で山となった場所から採掘されます。日本は鉱物資源の乏しい国ですが、石灰は国内で自給できる数少ない鉱物資源です。

さて、この石灰がどのようにして漆喰になるのでしょうか？

### 漆喰になるまで

石灰岩から採掘された石灰石は、塩と一緒に釜に投入され、じつくりと焼かれます。焼かれた石灰石は、白く変わり軽くなります。これが「生石灰（きせっかい）」と言います。

生石灰は水と反応しやすく、この反応

が起こったものが「消石灰（しょうせっかい）」と言います。一般的に「石灰」と呼ばれるものになります。生石灰は、消石灰になると徐々に崩れ、白い粉状になります。

消石灰に水と糊とスサ（紙や麻などの繊維）を混ぜ、よく練ったペースト状ものが漆喰です。色は白の他、色土や顔料を加えた色漆喰があり、仕上げ材として使われるほか、砂を混ぜて下地や中塗りに使われることもあります。

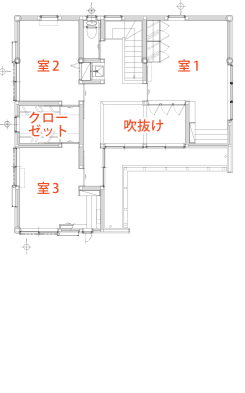
漆喰は、安全性の意識が高まるなかで、原料の素性がわかり、機能性も高い素材として今ふたたび見直されているのではないのでしょうか。



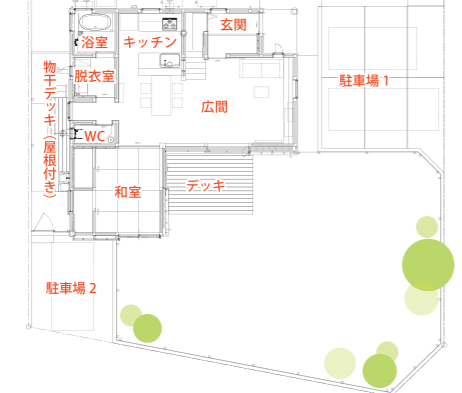
5

- 1 / 和室の壁は、利休色のシラス壁。写真では解りにくいが、刷毛引きで仕上げたため、横のラインが入り、落ち着いた雰囲気になった。
- 2 / ダイニングから広間を望む。松の床板や漆喰壁がとても綺麗で、清々しい空間の部屋になった。丸みを持った家具がアクセントになり、優しい雰囲気を出している。
- 3 / 練られた状態の漆喰。調合や練に時間が掛かるので、事前に工場練ったものを現場に運び施工する。
- 4 / 外壁の漆喰を仕上げる。予めモルタルで壁を作り、乾きを見て砂を入れた漆喰を下地に塗る。最後に仕上げの漆喰を塗って完成。
- 5 / 様々な用途に合わせてコテを使い分けている。狭い壁や三角の壁など、塗りにくい壁もたくさんあるが、どんな壁でも綺麗に仕上げてくれる。

### 2階平面図



### 1階平面図・敷地図



### 仕様内容

家族構成	家族3人
敷地面積	278.02㎡
建築面積	67.91㎡
延べ床面積	116.78㎡
構法	在来構法2階建て
屋根	ガルバリウム銅板 縦ハゼ葺き
外壁	ガルバリウム銅板 縦ハゼ葺き 角波張り 一部漆喰コテ押さえ仕上げ
外部建具	アルミサッシ+松木製建具(ペアガラス)
天井	杉板本実張り
壁	漆喰コテ押さえ、クロス貼り
床板	松本実板715mm+杉本実板730mm
内部建具	オリジナル木製建具
キッチン	オリジナルキッチン
浴室	天板:ステンレスヘアーライン 浴槽:INAX グラスティアーN ABN-1400 壁・天井:青森ヒノキ 床:サーモタイル300角
設計者	山崎健治
施工	ころも木造建築研究所
竣工	平成23年6月

現代では様々な壁紙をはじめ、壁の仕上げに使われる新しい建材がたくさん出ていますが、建築基準に合っているからと言って、本当に安心して使用できる素材でしょうか？また、汚れや経年劣化等、住み続けていく中でのメンテナンスも考慮すると、新築時に掛かるコストだけで判断するでは無く、数年、数十年住み続けたトータルコストで考えて行くことが大切ではないでしょうか。

漆喰に代表される伝統的な素材は、私達の身近で昔から使われてきた素材であり、歴史に裏づけされた信頼と、確かな性能を保持しています。また、見た目やデザイン性だけでなく、調湿作用や浄化作用を併せ持ち、健全な室内空間を作り出してくれています。そして、塗り壁等の左官工事は、少しの経験で出来るものには有りません。材料の調合からはじまり、季節や天候に合せた調整、また、美しい壁を作るための技術も必要です。

職人の手によって仕上りも様々ですが、真剣に向き合い仕上げてくれた壁はなんとも言えない満足感と幸福感を感じます。家造りにおいて、コストや効率を重視される現代ですが、大切な住まいだからこそ、確かな素材、確かな技術で造り上げてみませんか？時間の経過と共に、きつと満足に行く住まいになっていくと思います。

今年の6月に完成した『朝日の家』では、いよいよ外構工事をはじめました。施主自ら板塀造りにもチャレンジし、庭には、徐々に植栽を増やしていく予定です。暮らしのリズムに合わせ、心地よい住まいを造り上げていきたいと思っています。